

KFAW 国際理解セミナー

「アフリカ会議 in KFAW～アフリカのいま、そして未来を語ろう～」

日時：平成 30 年 6 月 29 日（金）13：30～16：00

場所：北九州市立男女共同参画センター・ムーブ 5 階大セミナールーム

内容：行政官によるリレートーク

<パネリスト>

- ・Mr. Twene James (ジェームズさん) (ガーナ)
- ・Ms. Ilunga Adventina Kato (カトさん) (タンザニア)
- ・Mr. Kalelo Phiri Joseph (ジョセフさん) (マラウイ)
- ・Ms. Keri Jane Tumalu Erasto (ジェーンさん) (南スーダン)
- ・Mr. Edo Sunday Ekata (エドさん) (ナイジェリア)

<進行役> 堀内 光子 (KFAW 理事長)

参加人数：56 名

KFAW では、JICA のジェンダー研修で来日中の行政官をお招きし、それぞれの出身国について語っていただくことで、アフリカについての理解を深めると共に、ジェンダー平等や女性のエンパワーメントについてグローバルな視点で考えるセミナーを開催しました。



◆ジェームズさん (ガーナ)

みなさん、こんにちは。私はジェームズ・トゥエーネです。ガーナから来ました。ジェンダーと児童・社会福祉省に勤務しています。ガーナの人口は約 2,465 万人です。最新の統計では 2,960 万とする推定もあります。都市部に住む人と農村部に住む人の割合は同じくらいです。ガーナは鉱物資源が豊富です。またカカオはさまざまなチョコレートや飲料のミロに使われます。ガーナには 10 の州があり、それぞれの文化があります。宗教は、イスラム教、伝統的宗教、キリスト教の 3 つです。ガーナは 1957 年に英国の植民地支配から独立しました。漁業、製造業、農業、貿易、



縫製などの産業があります。ガーナでは労働人口の56%が農業、15%が工業、29%がサービス業に従事しています。観光地としては、沿岸部の奴隷貿易の拠点となった建物がありません。また森の中にはたくさんの象がいます。

男女の役割ですが、男性は家族の中で意思決定をし、テレビを見て、新聞を読みます。子どもと遊び、子ども達が学校に行くのを手伝います。女性は、料理、掃除、洗濯、水汲み、薪を集め、物の売り買い、穀物をすりつぶしたり、他にもたくさんのことをします。

ガーナはジェンダー平等に関してさまざまな条約に批准しています。国家ジェンダー政策や子どもや家族の福祉のための政策などです。国会に提出予定の差別是正措置法案がとても重要です。この法案が国会を通過すれば重要な政策決定の職務に女性が20%就くことができます。いろいろな施策があるものの課題もたくさんあります。意思決定の職務に女性が少なく、土地、技術、情報、信用といった生産的な資源に女性が十分にアクセスできず、そしてジェンダー平等に反するような文化や慣習がいまだに残っており、家族の世話や家事の負担が女性の大きな負担になっている状況があります。

◆カトさん（タンザニア）



私の名前はアドヴェンティーナ・カト・イルンガです。タンザニアから来ました。保健・地域開発・ジェンダー・高齢者・子ども省で、経済の専門家として勤務しています。

タンザニアは東アフリカの国の一つで1961年に独立しました。独立以来紛争もなく平和な国です。人口は4,490万人で、そのうち70.4%が農村部に暮らしています。首都はドドマで、中央部に位置しています。アフリカの伝統的な衣装はヴィテンジェです。マサイ族は別の伝統的な衣装を身に着けます。マサイ族は家畜を中心にさまざまな動物を育てています。

タンザニアは発展途上国で、農業、観光業、鉱業に大きく依存しています。タンザニアの国の言語はスワヒリ語で、公用語は英語です。その他にも地元で話されている言語があります。多くのタンザニア人はキリスト教徒ですが、次に多いのがイスラム教徒です。宗教を信仰しないタンザニア人もいます。タンザニアはアフリカ最高峰のキリマンジャロや国立公園などたくさんの観光地があります。国立公園には素晴らしい動物がたくさんいます。

タンザニアの男女の役割ですが、伝統的に家事は女性が行います。女性は忙しくて、なかなか休む時間が取れません。男性も女性も一緒に農作業を行います。しかし、農作物に関する決定権は男性側にあります。タンザニアには3種類の結婚があります。宗教による結婚、民事婚、そして伝統的な結婚です。どの結婚においても男性は花嫁の両親に婚資を払わなければなりません。1977年の結婚法によれば、男性は家族の面倒を見る責任があります。離婚した場合も男性は子どもの面倒を見る責任があります。タンザニアには女性器切除(FGM)という問題もあります。また、女子に関しては、早婚や低年齢での妊娠という

問題もあります。妊産婦の死亡率も高いです。これは農村部や僻地に住む女性がきちんと医療を受けられないからです。男性と女性の雇用率も違います。多くの女性はインフォーマルセクターで働いています。しかし、タンザニア政府もさまざまな取り組みを行ってきました。2000年の女性とジェンダー開発計画、男女の区別なく平等な教育を推進する2014年の国家教育政策、雇用と労働の法律はあらゆる職場で差別撤廃を雇用主に要求しています。女性や女兒に対する暴力をなくすための国家行動計画もあります。また女性開発基金やタンザニア女性銀行を通じて女性に対する融資もしています。特別なホットラインを設け、暴力の被害者からの電話を適切な機関に紹介しています。また家屋と土地の所有を男女共に単独もしくは共同でできるような法律も施行しました。現在39%の女性が自分の土地を所有しています。下院には女性に40%の特別議席があります。タンザニアの副大統領は女性で、彼女は国連の女性のエンパワーメントに関するハイレベル有識者会議のメンバーでもあります。またタンザニア国会の副議長も女性です。

ぜひお時間があればタンザニアに来てください。ありがとうございました。

◆ジョセフさん（マラウイ）

こんにちは、私はカレロ・ジョセフです。マラウイから来ました。ジェンダー・障害者省に勤務しています。

マラウイはザンビア、タンザニア、そしてモザンビークと国境を接しています。「アフリカの温かい心」がモットーです。私たちも日本人と同じように友好的でホスピタリティに溢れています。マラウイは1964年に独立するまで英国の植民地でした。チチェワというのが国の言語で、英語が公用語です。首都はリロングウェで国の中央部にあります。人口は約1,700万人で、若い人の割合が高いことからこれからの国の発展が期待できます。1964年に独立してから5人の大統領が就任しましたが、そのうちの一人は女性です。



マラウイと日本の関係ですが、東京には1992年にマラウイ大使館が置かれ、日本大使館は2008年にマラウイの首都に設立されました。マラウイから日本へはタバコやコーヒーを輸出しています。日本車はマラウイで大変人気があります。タバコは外貨獲得の大きな収入源です。その他に、茶、砂糖、綿花、コーヒー、豆類、木材などを輸出しています。

マラウイは自然に恵まれており、美しい山々、ビッグ5と呼ばれる動物（象、ライオン、サイ、ヒョウ、バッファロー）を見ることができます。世界有数の淡水湖マラウイ湖があり、多くの魚が住んでいます。私たちは何か楽しいことがあるとすぐに踊ります。宗教に関してはキリスト教徒が75%、イスラム教徒が20%、その他の宗教が5%です。

マラウイの男女の役割は、誰かが亡くなると男性は墓を掘り、女性は葬儀の時に泣きくことです。男性は、狩猟、漁業、牧畜、農業に従事し、地域でのリーダーを務め、宗教活

動に参加し、有償の仕事をしています。一方、女性は、料理、洗濯、薪拾い、水汲み、病人や高齢者の世話などで、女性のほうが男性よりも多くの仕事をこなしています。

ジェンダー平等の取り組みに関しては、マラウィは、アフリカ南部の国の中で初めて女性の大統領が誕生した国です。これはリベリアに続いてアフリカで2番目です。初等中等教育において女兒の就学率が男児に比べて低かったのが、女兒の就学率を上げて男児と同じようになるよう努力をしてきました。また、女性の生理など今までタブー視されていたことも人前で話題にできるようになりました。ファーストレディなど影響力のある人をジェンダー平等の活動に参加させています。妊産婦の死亡率も減少しました。達成したこともたくさんあるものの課題も残っています。法律や政策が正しく解釈されなかったり、うまく普及しなかったり、人的資源が不十分、意思決定のできる女性がまだまだ少ない、女性や女兒にとって有害な文化的習慣が根強く残っています。まだまだやらなければならないことがたくさんあります。

アフリカのことわざを紹介します。「家族は森のようなものです。外から見ると森は密集しているように見えます。しかしいったん森の中に入ると、それぞれの木にはそれぞれの場所があります。」ぜひアフリカに来て、豊かで多様な大陸を感じて欲しいです。アフリカには大きな可能性があります。

◆ジェーンさん（南スーダン）



こんにちは。私は南スーダンからきましたジェーン・エラストです。南スーダンは2011年に国民投票でスーダンから独立しました。南スーダンは農業国で、雨水を使った灌漑システムに依存しています。人口の83%が農村部に住んでいます。78%の世帯が農業や牧畜に従事し生計を立てています。GDPの構成ですが、石油の輸出が71%、工業が大変低く0.4%、そして農業が10%を占めています。

南スーダンの人口は826万人（2010年国勢調査）で64の民族がおり、首都はジュバに置かれています。

農村部の女性の重要な役割は、子どもと高齢者の世話です。また野菜の生産など農業所得を得るような経済活動も行っており、家族への衣食住の提供や家庭内の管理の仕事もしています。農村地域における女性の役割は、夫を助け、家庭内の問題を解決し、子どもを産むことです。紛争などで夫を亡くした女性は世帯主としての家庭の責任を引き継いでいます。農村出身の女性は二流の市民と考えられており、権限を持っていません。自分の権利を主張できず、重要な意思決定にも参加できません。農村部では女性は商品のように扱われることもあります。農村女性の健康ですが、南スーダンでは医療施設や医療スタッフが不足しているために妊産婦の死亡率が大変高くなっています。また近年の内戦で国が破壊され、農村部では貧困がまん延しています。多くの世帯が深刻な食料不足に直面し、栄養失調のリスクも高まっています。

内戦で夫を亡くし未亡人となったある女性たちのグループの取り組みをご紹介します。
このグループは女性の経済的エンパワーメントを推進するプロジェクトの支援を受け、農業生産を上げることで、女性たちが自分たちの家族を支えていくことができるようになりました。野菜などを生産し自給自足農業を行うことで農村部の人たちに十分な食料を提供しています。2011年には余剰作物を販売することで収入も得られるようになりました。

農村部には家畜を飼っている家庭もたくさんあります。またはちみつや野菜の生産、漁業、養鶏なども行われています。茶、パン、キャッサバ、雑穀、ピーナッツやゴマを販売することで収入を得る活動もしています。

北九州のみなさんとお会いできてうれしいです。日本人はとても親切で、時間に対する意識も高く仕事もきちんとしています。ご清聴ありがとうございました。

◆エドさん（ナイジェリア）

みなさん、こんにちは。私の名前はエド・サンディ・エカタです。

私はナイジェリアの社会問題・女性開発省に勤務しています。ナイジェリアは西アフリカのギニア湾に面しています。2013年の推定人口は約1億7450万人で、アフリカ大陸で最も人口が多く、「アフリカの巨人」と呼ばれています。ナイジェリアは中央銀行の方針により、比較的安定した経済状況にあります。また、アフリカの中でも多くの石油を輸出しており、アメリカなど多くの国がナイジェリアの石油に依存しています。イスラム教、キリスト教、そして伝統的な宗教が信仰されています。ナイジェリアは1960年に独立し、1963年に共和国になりました。公用語は英語ですが、この他に3つの言語が話されています。これはナイジェリアが3つの区域に分かれているためです。



男女の役割ですが、男性は主に家族のために意思決定をし、仕事を終わるとテレビを見て、新聞を読む、子どもと遊ぶ、子どもが学校に行く手助けをします。一方女性は、料理、掃除、洗濯、水汲み、薪集め、物の売り買い、穀物をすりつぶすなどさまざまなことをしています。

ナイジェリアでは国家ジェンダー政策や国家行動計画を策定し、ジェンダー平等を推進してきました。問題点としては、法律の整備が不十分であること、またジェンダー問題に精通した人材が不足していること、そして女性を差別するような宗教的、伝統的慣習が残っていることです。